

学科近況

年度末を迎え、忙しい日々をお過ごしのことでしょう。沖縄高専も来年度に向けて慌ただしい状況になってきました。学生は学年末試験が終わり、進級が確定し、ほっとしていることでしょう。メディア情報工学科では、新たに来年度の各学年担任も決定し、進学指導、就職指導の体制を整えてまいります。4月から小早川准教授も赴任し、11名の体制となります。

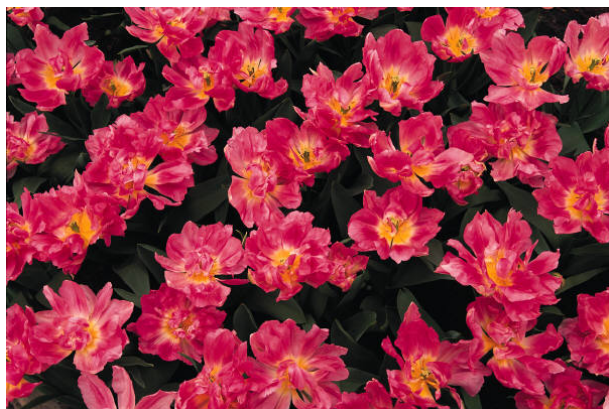
メディア情報工学科では、最上級生(5年生)となる現4年生が就職、進学について担任との三者面談も終わり、準備に入っています。すでに就職試験を受けた学生もあり、沖縄高専第一号の就職内定者はメディア情報工学科の学生です。

来年度は卒業研究が始まります。学生は各教官の研究室で研究を行い、社会で通用する技術習得に励むことでしょう。

3月3日から6日にかけて、初めての研修旅行を行いました。参加した学生から旅行中の楽しい話などをお聞きになり、参考にさせていただきたいと思えます。また、3年生は来年度のインターンシップなど行事が控えています。今から各自の進路を意識させ、学業に励むように指導してまいります。

メディア情報工学科について、ご意見などお寄せください。皆様のご意見を取り入れ教育環境を充実してまいります。本年一年間、全学生が健やかに勉学に励むことができましたのは保護者の皆様のご協力によるものとメディア情報工学教員一同感謝致します。

(学科長・水野正志)



進路関係の話題

進学特集(大学編入学について3年生への説明)

本科5年卒業後の進学先には、高専専攻科と大学が主になりますが、今回は大学進学について説明します。大学3年次に編入することを一般に「編入学」と言っています。高校卒業後の大学(1年次への)入学とは、入試時期や受験できる学部など異なる点が多いので、よく調べることが必要です。

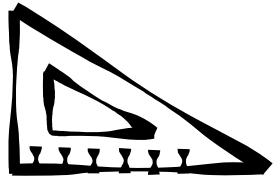
編入学後は編入先のカリキュラムや進級要件、卒業要件に従います。編入先でのカリキュラムと高専での授業内容や単位取得状況を照らし合わせて、編入先のどの科目を合格したとみなすかを入学後に大学側が判断します。これを「単位の読み替え」とよんでいます。つまり高専での取得した単位を大学で取得したと「読み替え」るのです。単位の読み替えのルールは大学や学部、学科によって定められていて、一様ではありません。高専の4、5年次の科目しか読み替えの対象にならない場合もありますし、3年次の科目も認める場合もあります。また、読み替え単位の上限も大学によってまちまちです。

多くの大学・学部では高専や短大生を対象とした編入学を実施していますが、工学部をはじめとする理系の学部では高専生を対象とした編入学試験を実施しています。以下では、高専生を対象とした工学部情報系学科の編入学について説明しています。

進学先を選ぶときは、大学のウェブサイトが大いに参考になります。また、どのような大学があるかわからない場合は、高校生向けの受験サイトや国公立・私立大学を網羅したサイトが役立ちます。進学を希望する学部がどの場所にあつて、どのようなカリキュラムで、どのような専門を持つ教員が何人なのか、編入学を受け入れているのか調べればすぐにわかります(編入学を受け入れているかどうか、ウェブで確認できない場合は本学科教員に相談してください)。

大学がたくさんあつて、どこを選べばわからない場合は、カリキュラムやシラバス(授業計画書)を調べてみましょう。これらから、その学部(学科)の1・2年に何を勉強し、編入した後の3・4年に何を勉強するかがある程度わかります。また卒業研究のテーマや、大学院でのカリキュラム・シラバスも、その学部・学科の得意分野を知る手がかりになります。各大学の編入の概要を記したガイドブックも市販されていて大いに利用できますが、全てを網羅しているわけではな

いので注意しましょう。また、本校において一部の大学・学部の説明会が開催されます。説明会では大学教員に直接質問できますし、色々な大学を比べる参考になりますので、興味の有無に関わらず積極的に参加してください。一期生には、根気よく大学のサイトを調べ、自分の希望がかなう学科を見つけた学生や、夏休みに大学まで足を運び最終的な希望順位を決めた学生もいます。手間を惜



しまず調べてほしいと思います。

進学先の候補は1つではなく複数探しておきましょう。編入学試験には推薦と一般の入試がありますが、編入学試験の倍率は推薦入試でも1倍より大きく、推薦・一般に関わらず関東、関西にある大学は人気が高く高倍率です。不合格の可能性も考え、第1志望から第3志望くらいまでは順位をつけて考えておくほうがよいと思います。編入学試験の日程は大学・学部によってまちまちなので、一般入試であって試験日程が重なってなければ何校でも受験できます。最終的な試験日程は受験時の募集要項で確認しなければなりません。本校図書館や大学サイトで閲覧できる過年度の募集要項から、志望校の試験日程が重ならないか調べておきましょう。また、推薦入試に合格すると入学を辞退できないので、推薦入試と一般入試との併願には注意してください。

さらに入試科目や出題範囲を知ることも重要です。過去の入試問題のコピーは、いくつかの学部については図書館にありますし、大学サイトからダウンロードできる場合もあります。過去問題に目を通し出題範囲を確認しましょう。受験勉強の際には過去問題を解き、試験範囲について集中的な対策をすることになります。



受験対策は学生自身で行ないますが、進学

先候補が複数校決まるまで特別な受験勉強は必要ないと思います。むしろ高専の授業を最優先に勉強してもらいたいと思います。なぜなら、推薦入試に「成績上位であること」や「成績が優秀であること」という要件がつけられている場合が多く、成績(特に4年次の総合成績)が良くないと推薦入試を受験することができないからです。4月からは、とにかく、授業を休まず積極的に学習しましょう。

4月以降、クラスでの進路指導も具体的な内容になってくると思います。学生たちにはたくさん調べて、悩んで、納得のいく進路を自分自身で手に入れてほしいと願っています。ご家庭でも、是非、彼らの話を聞いてあげてほしいと思います。

(4年メディア担任:太田 佐栄子)

インターンシップについて(現3年生向け)

4年生ではインターンシップという科目が必修となります。夏季休業(平成20年度は8月21日から9月30日まで)中に、協力してくれる県内外の企業などにおいて2週間程度の就業体験を積むことが中心ですが、履歴書など文書作成やビジネスマナーに関する事前指導からはじまり、事後のレポート作成と発表会、などやるべきことは他にもたくさんあります。その際、気をつけなければならないのは、他の授業とは異なり「ビジネスの場に相応しくない身なり(服装・髪型など)が認められない」ということです。もちろん、現実の実習においてどこまでが許される範囲かということについては、受け入れ側の



企業によって様々であり、平成19年度のインターンシップにおいては実習中スーツをほとんど使わなかったという例もあったよう

です。しかし学校としては、ビジネスの現場で実習を行なうための一般的な常識という観点から、授業の中でスーツ着用などの条件を一律に課す場合がありますので、各ご家庭においても理解と協力をお願いいたします。インターンシップにスーツは必須と言えますので、手に入りやすい時期に購入しておかれるか、どなたかのお下がりがないか探しておかれるなど、早い目に準備を行なわれた方がよいと思われます。来る4月16日(水)には早速、インターンシップ企業説明会が校内で開催される予定です。

(3年メディア担任:西村篤)



編集後記

「メディア情報工学科だより」は、3学年以上の学生をお持ちの家庭を対象に、試験の成績通知に合わせて発行している学科通信です。一期生が3学年となった平成18年度に刊行し、以後2年間に今号も入れて6号を発行しました。平成20年度からは、学科だより編集の業務は他のスタッフに引き継がれる予定ですが、次号発行(平成20年6月頃)までは引き続き窓口業務を西村が担当いたしますので、ご意見ご要望がありましたら是非お知らせ下さい。また保護者が学校に対してお持ちの疑問・要望、また他の保護者にも知って欲しいことなどを投書して下さることも大歓迎ですので、是非お気軽にお便りをお寄せ下さい。

【編集担当者連絡先】

〒905-9021 沖縄県名護市辺野古905
独立行政法人国立高等専門学校機構 沖縄工業高等専門学校
メディア情報工学科 西村篤(※次号発行までの間)
TEL: 0980-55-4003(代) FAX: 0980-55-4012(代)